

安全就業だより第278号

安全就業対策委員会

令和6年6月10日発行

令和6年度安全就業に関する標語決定

【一 席】

(敬称略)

声出し 気配り 思いやり 意識高めて災害防止

石井 伸一 (除草班)

【入 選】

(敬称略)

急ぐな気持ち 焦るな作業 安全確認 ゼロ災ヨシ 木村 清 (植木班)

慣れた作業に落とし穴 基本動作を忘れずに 平山 稔 (除草班)

「災害の芽」隠さず、忘れず、見逃さず みんなで摘み取りゼロ災害

塩幡 征二 (粗大ごみ収集運搬班)

もう慣れた 危険の始まり その過信 ゆるむ心にひそむ事故

柴田 源二 (粗大ごみ収集運搬班)

令和6年度安全就業に関する標語募集に際し、会員の皆様にはたくさんのご応募をいただき誠にありがとうございました。

ご応募いただきました作品を安全委員会で審査し、上記5作品が令和6年度安全標語に決定しました。

代表として一席に選ばれました石井伸一会員を令和6年度定時総会にて表彰予定です。

入選された皆様、おめでとうございます。

熱中症に注意しよう！！

高齢者の方は温度に対する感覚が弱くなるため、室内でも熱中症にかかりやすいといわれています。また、気温が高い中でマスクを着用することにより、体内に熱がこもったりのどの渇きを感じにくくなったりするなど、熱中症のリスクがさらに高まります。

ご本人および周囲の方は、下記の点に注意して熱中症の予防・対策をおこない、暑い時期を乗り切りましょう。



1 「気温や湿度を」計って知ろう

高齢者の方は体温の調節機能が落ちてくるため暑さを自覚しにくく、熱を逃がす体の反応や暑さ対策の行動が遅れがちです。気温・湿度計、熱中症計などを活用し、今いる環境の危険度を知りましょう。

2 「室内を」涼しくしよう

日差しのない室内でも、高温多湿・無風の環境は熱中症の危険度が高まります。冷房や除湿器・扇風機などを適度に利用し、涼しく風通しの良い環境で過ごしましょう。

3 「水分を」計画的にとろう

高齢者の方は体内水分量の減少により脱水症状になりやすく、さらに体が脱水を察知しにくいため、水分補給が遅れがちです。のどが渇く前に、定期的な水分補給をしましょう。

きゅうりやナスなど、水分を多く含む食材を食事に取り入れるのも効果的です。

4 「お風呂や寝るときも」注意しよう

入浴時や就寝時にも体の水分は失われていき、気づかぬうちに熱中症にかかることがあります。入浴前後に十分な水分補給をしたり、寝るときは枕元に飲料を置いたりしておくといよいでしょう。

5 「お出かけは」体に十分配慮しよう

外出時は、体への負荷が高まることに加え、汗で水分が失われたり、日差しや熱の影響を受けやすくなったりします。服装を工夫する他、水分や休憩を十分とって体を守りましょう。

6 「周りの人が」気にかけてよう

高齢者の方は自分で暑さやのどの渇きに気づきにくいというえ、体調の変化も我慢をしてしまうことがあります。周りの人が体調をこまめに気かけ、予防対策を促してあげましょう。